

(4) 他教科等の学習内容との関連

子どもには、様々な学習活動を通して、各教科等の学習目標を身に付けていくとともに、それぞれの教科等で学んだことを有機的に結び付け、学習活動全体の成果としての「生きる力」として実生活で生かしていくことが期待されます。しかし、一方で、学習段階が進んでいく中で、各教科ごとの学習を個々に切り離して捉えがちな様子もみられます。

このことから、小学校、中学校、あるいは高等学校での学習活動全体を通して、子どもに身に付けさせたい「生きる力」をよりよく実現するための手立てとして、相互に関連付けて捉えることができるような工夫が必要です。

社会科の授業においても、社会科で身に付けた能力や学習内容を他教科等の学習に生かす、他教科などで身に付けた能力や学習内容を社会科の学習に生かすといったことを、子ども自身が意識できるような学習活動を取り入れることが大切です。

例えば、社会科で「環境」について学習する場面では、それまでに子どもが国語科で「環境」に関連するどのような教材に触れてきたか、理科ではどうか、などといったことを踏まえて、その内容を社会科での学習活動の中に生かすことができます。また、算数・数学科で身に付けた数量関係を適切に処理し、表現する能力を、社会科の学習の中で積極的に活用することができます。

このような学習体験を積み重ねることで、各教科の学習内容を、横断的に、あるいは総合的に捉えたり、新たな学習場面で生かしていく力を付けたりすることにつながります。

社会科の学習の中で扱う様々な分野、様々な単元についての学習活動を、社会科としての学習のつながりを大切にして構成するだけでなく、他の教科等の学習内容とのつながりも十分意識して構成することが、子どものよりよい学習活動のためには大切なことです。

次ページからは、算数・数学科及び理科の学習指導要領に示された内容のうち、社会科の学習を通して育てたい能力や、学習内容との関連が深い部分を示しました。

算数・数学科については、算数・数学科の学習を通して身に付ける能力に、社会科の学習を通して身に付けさせたい「観察力や資料活用力、表現力」の基礎が含まれています。

理科については、社会科の学習内容のうち、主に地理的な内容に関する、地形や気候、自然災害、エネルギー資源、環境と人間生活などについての単元と関わりの深い内容が含まれています。

その他の教科での学習内容についても、社会科の学習と関連付けることができるものがあります。特に、言語活動を充実させていく上で、言語に関する能力を育成する中核的な教科である国語科との関連を図ることが大切です。また、国語科や外国語科では、環境や国際理解、平和などに関する教材が扱われます。中学校の音楽科や美術科では、日本や世界の様々な時代の作品が教材として取り上げられています。技術・家庭科には、環境と人間生活、高齢化社会、情報化社会、消費者問題などに関する内容があります。

それぞれの学校における子どもの学習過程を、他教科等も含めて広い視野で見渡して、社会科の学習活動を展開する上で生かせる内容があれば、それらを導入の場面などで適切に扱うことで、子どもの関心や意欲、能力をより高めたり、理解をより深めたりすることにつながるような指導を工夫することができます。

－参考－

○「社会科で育てる能力」と「算数科の学習内容」との関連（小学校）

| 「社会科」で育てる能力 | 「算数科」の学習内容 |
|--|---|
| －第3学年及び第4学年－目標(3) ・地域における社会的事象を観察，調査するとともに，地図や各種の具体的資料を効果的に活用し，地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力，調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする | －第2学年－ ○長さの単位（ミリメートル(mm)，センチメートル(cm)，メートル(m)） －第3学年－ ○長さの単位(キロメートル(km))，重さの単位(グラム(g)，キログラム(kg)) ○長さや重さについて，およその見当を付けたり，目的に応じて単位や計器を適切に選んで測定したりできること ○時間について理解できること ○資料を分類整理し，表やグラフを用いて分かりやすく表したり読み取ったりすること ・棒グラフの読み方やかき方 |
| －第5学年－目標(3) ・社会的事象を具体的に調査するとともに，地図や地球儀，統計などの各種の基礎的資料を効果的に活用し，社会的事象の意味について考える力，調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする | －第4学年－ ○面積の単位 （平方センチメートル(cm ²)，平方メートル(m ²)，平方キロメートル(km ²)） ○正方形及び長方形の面積の求め方を考えること ○角の大きさの単位（度(°)）について知ること ○伴って変わる二つの数量の関係を表したり調べたりすること ・変化の様子を折れ線グラフを用いて表したり，変化の特徴を読み取ったりする ○目的に応じて資料を集めて分類整理し，表やグラフを用いて分かりやすく表したり，特徴を調べたりすること ・資料を二つの観点から分類整理して特徴を調べる ・折れ線グラフの読み方やかき方 －第5学年－ ○三角形，平行四辺形，ひし形及び台形の面積の求め方を考えること ○体積の単位（立方センチメートル(cm ³)，立方メートル(m ³)） ○立方体及び直方体の体積の求め方を考えること ○測定値の平均について知ること ○異種の二つの量の割合としてとらえられる数量について，その比べ方や表し方 ・単位量当たりの大きさについて知る ○表を用いて，伴って変わる二つの数量の関係を考察できること ・簡単な場合について，比例の関係があることを知る ○百分率について理解できること ○目的に応じて資料を集めて分類整理し，円グラフや帯グラフを用いて表したり，特徴を調べたりすること |
| －第6学年－目標(3) ・社会的事象を具体的に調査するとともに，地図や地球儀，年表などの各種の基礎的資料を効果的に活用し，社会的事象の意味をより広い視野から考える力，調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする | －第6学年－ ○身の周りにある形について，その概形をとらえ，およその面積などを求めること ○円の面積の求め方を考えること ○角柱及び円柱の体積の求め方を考えること ○速さについて理解し，求めること ○メートル法の単位の仕組みについて理解できるようにすること ○縮図や拡大図について理解すること ○比について理解できること ○伴って変わる二つの数量の関係を考察すること ・比例の関係についての理解，また，式，表，グラフを用いてその特徴を調べる ・比例の関係をj用いて，問題を解決する ・反比例の関係について知る |

- 資料の平均や散らばりを調べ、統計的に考察したり表現したりすること
 - ・資料の平均について知る
 - ・度数分布を表す表やグラフについて知る

○「社会科で学ぶ学習内容」と「理科で学ぶ学習内容」との関連 (小学校・中学校)

・地形や気候について

「社会科」で学ぶ学習内容

小学校

－第5学年－

- (1) 我が国の国土の自然などの様子
- イ 国土の地形や気候の概要、自然条件から見て特色ある地域の人々の生活
 - エ 国土の保全などのための森林資源の働き及び自然災害の防止

中学校

－地理的分野－

(1) 世界の様々な地域

ア 世界の地域構成

地球儀や世界地図を活用し、緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置、地域区分などを取り上げ、世界の地域構成を大観させる

イ 世界各地の人々の生活と環境

世界各地における人々の生活の様子とその変容について、自然及び社会的条件と関連付けて考察させ、世界の人々の生活や環境の多様性を理解させる

(2) 日本の様々な地域

イ 世界と比べた日本の地域的特色

(7) 自然環境

世界的視野から日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色を理解させるとともに、国内の地形や気候の特色、自然災害と防災への努力を取り上げ、日本の自然環境に関する特色を大観させる

ウ 日本の諸地域

(7) 自然環境を中核とした考察

地域の地形や気候などの自然環境に関する特色ある事象を中核として、それを人々の生活や産業な

「理科」で学ぶ学習内容

小学校

－第5学年－

- 地面を流れる水や川の様子を観察し、流れる水の速さや量による働きの違いを調べ、流れる水の働きと土地の変化の関係についての考えをもつこと
- 1日の雲の様子を観測したり、映像などの情報を活用したりして、雲の動きなどを調べ、天気の変化の仕方についての考えをもつこと

－第6学年－

- 土地やその中に含まれる物を観察し、土地のつくりや土地のでき方を調べ、土地のつくりと変化についての考えをもつこと
 - ・土地は、礫(れき)、砂、泥、火山灰及び岩石からできており、層をつくって広がっているものがある
 - ・地層は、流れる水の働きや火山の噴火によってでき、化石が含まれているものがある
 - ・土地は、火山の噴火や地震によって変化する

中学校

－第1学年(第2分野)－

- 大地の活動の様子や身近な岩石、地層、地形などの観察を通して、地表に見られる様々な事物・現象を大地の変化と関連付けて理解させ、大地の変化についての認識を深めること
 - ・火山と地震
 - ・火山の形、活動の様子及びその噴出物を調べ、それらを地下のマグマの性質と関連付けてとらえるとともに、火山岩と深成岩の観察を行い、それらの組織の違いを成因と関連付けてとらえる
 - ・地震の体験や記録を基に、その揺れの大きさや伝わり方の規則性に気付くとともに、地震の原因を地球内部の働きと関連付けてとらえ、地震に伴う土地の変化の様子を理解する
 - ・地層の重なりと過去の様子
 - ・野外観察などを行い、観察記録を基に、地層のでき方を考察し、重なり方や広がり方についての規則性を見いだすとともに、地層とその中の化石を手掛かりとして過去の環境と地質年代を推定する

－第2学年(第2分野)－

- 身近な気象の観察、観測を通して、気象要素と天気の変化の関係を見いださせるとともに、気象現象についてそれが起こる仕組みと規則性についての認識を深めること
 - ・気象観測
 - ・校庭などで気象観測を行い、観測方法や記録の仕方を身に付けるとともに、その観測記録などに基づいて、気温、湿度、気圧、風向などの変化と天気との関係を見いだす
 - ・天気の変化
 - ・霧や雲の発生についての観察、実験を行い、そのでき方を気圧、気温及び湿度の変化と関連付けてとらえる
 - ・前線の通過に伴う天気の変化の観測結果などに基づいて、その変化を暖気、寒気と関連付けてとらえる

どと関連付け、自然環境が地域の人々の生活や産業などと深い関係をもっていることや、地域の自然災害に応じた防災対策が大切であることなどについて考える

・自然災害について

「社会科」で学ぶ学習内容

小学校

－第3学年及び第4学年－

(4) 地域社会における災害及び事故の防止について、次のことを見学、調査したり資料を活用したりして調べ、人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考える

－第5学年－

(1) 我が国の国土の自然などの様子

エ 国土の保全などのための森林資源の働き及び自然災害の防止

中学校

－地理的分野－

(2) 日本の様々な地域

イ 世界と比べた日本の地域的特色

(7) 自然環境

世界的視野から日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色を理解させるとともに、国内の地形や気候の特色、自然災害と防災への努力を取り上げ、日本の自然環境に関する特色を大観させる

ウ 日本の諸地域

(7) 自然環境を中核とした考察

地域の地形や気候などの自然環境に関する特色ある事象を中核として、それを人々の生活や産業などと関連付け、自然環境が地域の人々の生活や産業などと深い関係をもっていることや、地域の自然災害に応じた防災対策が大切であることなどについて考える

・日本の気象

- ・天気図や気象衛星画像などから、日本の天気の特徴を気団と関連付けてとらえる
- ・気象衛星画像や調査記録などから、日本の気象を日本付近の大気の動きや海洋の影響に関連付けてとらえる

－第3学年（第2分野）－

○身近な天体の観察を通して、地球の運動について考察させるとともに、太陽や惑星の特徴及び月の運動と見え方を理解させ、太陽系や恒星など宇宙についての認識を深めること

・天体の動きと地球の自転・公転

- ・天体の日周運動の観察を行い、その観察記録を地球の自転と関連付けてとらえる
- ・星座の年周運動や太陽の南中高度の変化などの観察を行い、その観察記録を地球の公転や地軸の傾きと関連付けてとらえる

「理科」で学ぶ学習内容

小学校

－第5学年－

○地面を流れる水や川の様子を観察し、流れる水の速さや量による働きの違いを調べ、流れる水の働きと土地の変化の関係についての考えをもつこと

－第6学年－

○土地やその中に含まれる物を観察し、土地のつくりや土地のでき方を調べ、土地のつくりと変化についての考えをもつこと

- ・土地は、礫(れき)、砂、泥、火山灰及び岩石からできており、層をつくって広がっているものがある
- ・地層は、流れる水の働きや火山の噴火によってでき、化石が含まれているものがある
- ・土地は、火山の噴火や地震によって変化する

中学校

－第1学年（第2分野）－

○大地の成り立ちと変化

大地の活動の様子や身近な岩石、地層、地形などの観察を通して、地表に見られる様々な事物・現象を大地の変化と関連付けて理解させ、大地の変化についての認識を深めること

・火山活動と火成岩

- ・火山の形、活動の様子及びその噴出物を調べ、それらを地下のマグマの性質と関連付けてとらえるとともに、火山岩と深成岩の観察を行い、それらの組織の違いを成因と関連付けてとらえる

・地震の伝わり方と地球内部の働き

- ・地震の体験や記録を基に、その揺れの大きさや伝わり方の規則性に気付くとともに、地震の原因を地球内部の働きと関連付けてとらえ、地震に伴う土地の変化の様子を理解する

－第3学年（第2分野）－

○自然と人間

・自然の恵みと災害

- ・自然がもたらす恵みと災害などについて調べ、これらを多面的、総合的にとらえて、自然と人間のかかわり方について考察する

・エネルギー資源について

「社会科」で学ぶ学習内容

中学校

一地理的分野一

(2) 日本の様々な地域

イ 世界と比べた日本の地域的特色

(ウ) 資源・エネルギーと産業

世界的視野から日本の資源・エネルギーの消費の現状を理解させるとともに、国内の産業の動向、環境やエネルギーに関する課題を取り上げ、日本の資源・エネルギーと産業に関する特色を大観させる

・環境と人間生活とのかかわりについて

「社会科」で学ぶ学習内容

小学校

一第5学年一

(1) 我が国の国土の自然などの様子

ウ 公害から国民の健康や生活環境を守ることの大切さ

エ 国土の保全などのための森林資源の働き及び自然災害の防止

中学校

一地理的分野一

(2) 日本の様々な地域

イ 世界と比べた日本の地域的特色

(ウ) 資源・エネルギーと産業

世界的視野から日本の資源・エネルギーの消費の現状を理解させるとともに、国内の産業の動向、環境やエネルギーに関する課題を取り上げ、日本の資源・エネルギーと産業に関する特色を大観させる

ウ 日本の諸地域

(イ) 環境問題や環境保全を中核とした考察

地域の環境問題や環境保全の取組を中核として、それを産業や地域開発の動向、人々の生活などと関連付け、持続可能な社会の構築のためには地域における環境保全の取組が大切であることなどについて考える

「理科」で学ぶ学習内容

中学校

一第3学年(第1分野)一

○科学技術と人間

エネルギー資源の利用や科学技術の発展と人間生活とのかかわりについて認識を深め、自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察し判断する態度を養う

・エネルギー

・エネルギーに関する観察、実験を通して、日常生活や社会では様々なエネルギーの変換を利用していることを理解する

・人間は、水力、火力、原子力などからエネルギーを得ていることを知るとともに、エネルギーの有効な利用が大切であることを認識する

「理科」で学ぶ学習内容

小学校

一第6学年一

○生物と環境

・動物や植物の生活を観察したり、資料を活用したりして調べ、生物と環境とのかかわりについての考えをもつことができるようにする

・生物は、水及び空気を通して周囲の環境とのかかわって生きている

中学校

一第3学年(第1分野)一

○科学技術と人間

エネルギー資源の利用や科学技術の発展と人間生活とのかかわりについて認識を深め、自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察し判断する態度を養う

・自然環境の保全と科学技術の利用

・自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察し、持続可能な社会をつくることを認識する

一第3学年(第2分野)一

○自然と人間

自然環境を調べ、自然界における生物相互の関係や自然界のつり合いについて理解させるとともに、自然と人間のかかわり方について認識を深め、自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察し判断する態度を養う

・生物と環境

・微生物の働きを調べ、植物、動物及び微生物を栄養の面から相互に関連付けてとらえるとともに、自然界では、これらの生物がつり合いを保って生活していることを見いだす

・身近な自然環境について調べ、様々な要因が自然界のつり合いに影響していることを理解するとともに、自然環境を保全することの重要性を認識する

・自然環境の保全と科学技術の利用

・自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察し、持続可能な社会をつくることを認識する